

## エイズ・性感染症対策基本方針に基づく取り組み・今後の計画等

&lt;委員名&gt; 伊藤 俊広 委員・今村 淳治 委員

視点		基本施策	令和5年度及び令和6年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<p>○ホームページ「東北AIDS/HIV情報ページ<a href="http://www.tohoku-hiv.info/">http://www.tohoku-hiv.info/</a>」において基礎知識等情報提供している。</p> <p>○主に医療者に向けた情報提供として、東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議(年2回、うち1回は他県の状況を中心とした内容)で治療の最新情報と現状報告をしているほか、院内教育や症例検討等を含む内容にて、東北HIV/AIDS看護研修(年1回)、東北HIV/AIDS薬剤師・心理福祉連絡会議(年1回)、東北エイズHIV臨床カンファレンス(年1回)を開催。</p> <p>○更に、地域施設に出向く形式で、仙台医療センターHIV/AIDS包括医療センター出張研修(年複数回)等を実施、これら活動を通じ、ブロック拠点病院として行政・拠点病院医療者に向けた情報提供を継続している。</p>
		学校における感染症教育	○仙台医療センター看護学校での講義は実施しているものの、感染症教育としての実績無し。
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<p>○仙台市のイベント検査会(年2回程度)に医師を派遣。</p> <p>一検査会でHIV陽性者があった場合は、保健師と連携し確実な病院受診に繋げている。</p> <p>○ホームページ「東北AIDS/HIV情報ページ <a href="http://www.tohoku-hiv.info/">http://www.tohoku-hiv.info/</a>」でHIV検査情報提供。</p>
		相談・カウンセリングの充実	○当院感染症内科を受診しHIV検査を行う患者に対しては、医師・看護師・カウンセラーが予防やHIV知識を含め説明している。
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	<p>○仙台医療センターでは全科で対応。</p> <p>→感染症内科看護師(HIVコーディネーターナース)が病棟や他科受診が円滑となるよう調整支援を行っている。</p> <p>→感染症内科では患者中心のチーム医療を実践。外来日は月曜日・水曜日・木曜日・金曜日、継続通院患者数約200名。定期的なカンファレンスに加えてミニカンファレンスを週1実施することで、多職種が同じ視点で患者支援にあたれるよう情報共有を行っている。</p> <p>→感染症内科外来専従のカウンセラー(心理療法士)がカウンセリングを実施。カウンセリング以外でも診療待合室等で気軽に会話ができる環境を整えている。</p> <p>→診療時にはHIV担当薬剤師が同席、患者個々の治療内容や生活状況を把握した上で、服薬支援を行っている。</p> <p>→地域連携室ケースワーカーと感染症内科看護師(HIVコーディネーターナース)との連携によるきめ細かい福祉サービス支援を実施。血友病HIV患者(薬害被害者)には、HIV専任ケースワーカーが個別に面会を行っている。</p> <p>○患者の高齢化等踏まえ、センター内に「HIV長期療養支援室」を組織、HIV患者の地域病院受診や福祉サービス・長期療養施設の利用が円滑になされるよう、支援室スタッフが地域に出向いての意見交換をはじめ、各施設・医療者との連携体制強化を図っている。</p> <p>○血友病HIV患者(薬害被害者)に対して関節可動域等を調べるリハビリ検診会を年1回実施。また、外来リハビリを開設し、患者個々の状態に合わせて日々できる運動を理学療法士が提案している。</p> <p>○東北在住の血友病HIV患者(薬害被害者)に対しては、個々に必要な各種検査を入院しまとめて行う「検査入院」を実施している。</p>
		生活全般に亘る支援	○当科担当看護師(HIVコーディネーターナース)が患者各々の治療と生活状況を把握し、通院継続できるようコーディネートしている。

<委員名> 児玉 栄一 委員

視点		基本施策	令和5年度及び令和6年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和5年度> 大学等の教育機関での情報提供
		学校における感染症教育	<令和6年度(予定)> 大学等での感染症に関する情報共有・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ感染症の講義・講演等でも性感染症を取り上げて比較する。学校教員等からの日々困っている感染症対策における要望・質問にも答えられるような機会を作る計画を立てる。既存の教育プログラムを補完するような支援項目の調査なども有効かもしれません。なかなか教育の場で広がらないボトルネックの解消や性教育を行う場合に保護者への対応を用意したほうがいいのかもかもしれません。
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<令和5年度> 東北大病院での対応に加えて、必要に応じて現在の仙台市の無料検査体制などにも協力する。
		相談・カウンセリングの充実	<令和6年度(予定)> 東北大病院での対応に加えて、必要に応じて現在の仙台市の無料検査体制などにも協力する。予算にもよりますが、他の性感染症に対する検査も増やせたらいいのかもしれない。
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	<令和5年度> 病院外来・入院等での診療を介して支援を行う。
		生活全般に亘る支援	<令和6年度(予定)> 病院外来・入院等での診療を介して支援を行う。

<委員名> 谷津 裕子 委員

視点		基本施策	令和5年度及び令和6年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	○所属大学において学群・研究科を対象にした性感染症対策に関する授業や研究指導を行う。 ○大学・高等学校・専門学校等からの依頼を受け、健康教育に関する講義を行う。
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	○所属大学において性感染症や性的問題に相談窓口となり、希望学生に対して個別相談を行う。保健室と連携し、必要があれば適した医療機関の受診を勧める。
		相談・カウンセリングの充実	
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	○専門の診療科や医療機関への紹介を含めて支援する。
		生活全般に亘る支援	

<委員名> 高橋 剛 委員

視点		基本施策	令和5年度及び令和6年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	○HIV検査普及週間における啓発 ○「世界エイズデーせんだいキャンペーン」 ・医療機関等への啓発ポスター・カードの設置・配布協力依頼に基づいて会員へ協力を依頼する
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	○会員医療機関での患者への自治体による無料検査案内、希望者に対する検査実施。 ○性感染症医療機関検査モデル事業への協力
		相談・カウンセリングの充実	
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	○HIV検査陽性者に対する受診勧奨、拠点病院への紹介などの対応を会員医療機関に対して周知する ○行政との支援連携
		生活全般に亘る支援	

<委員名> 齋藤 敏典 委員

視点		基本施策	令和5年度及び令和6年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	宮城県泌尿器科医会における講演依頼受付。外来での情報提供と啓発。
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	インターネット経由での検査結果連絡。仙台市令和5年度性感染症医療機関検査モデル事業への参加。
		相談・カウンセリングの充実	
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	エイズ拠点病院への紹介を含めた外来診療における情報提供。
		生活全般に亘る支援	

<委員名> 守末 紀生 委員

視点		基本施策	令和5年度及び令和6年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和5年度> ○仙台ヘアメイク専門学校の学生に対するエイズ・性感染症対策健康教育(授業)
		学校における感染症教育	<令和6年度予定> ○HIV検査普及に対する啓発 ○学校・事業所への啓発ポスターの配布と設置 ○学生に対して感染症対策授業(エイズ含む)

<委員名> 鈴木 仁美 委員

視点		基本施策	令和5年度及び令和6年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	○性に関する指導年間計画に基づき、教科指導の充実を図る。 ○学級担任と養護教諭のチームティーチングによる保健指導 6年「病気の予防」感染症の予防、HIVウイルスについて 令和6年度も同様の計画。
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	○保健室での個別の健康相談活動
		相談・カウンセリングの充実	

<委員名> 岡崎 奈保美 委員

視点		基本施策	令和5年度及び令和6年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和5年度の取り組み> ○世界エイズデー(12月1日)に合わせて ・保健便りの発行 ・保健委員による昼の放送 ・掲示物の作成
		学校における感染症教育	

<委員名> 後藤 佳子 委員

視点		基本施策	令和5年度及び令和6年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和5年度・令和6年度(予定)> ○保健体育・家庭科領域での授業 ○学年毎LHRでの保健講話(外部講師による) ・1学年…「SNS犯罪の概況について～若者とSNSの危険について～」仙台北警察署生活安全課 只野真衣 氏 ・2学年…「思春期の性について～医療の現場から～」坂総合病院 産婦人科小児科診療部長 船山由有子 氏 ・3学年…「若者と薬物の危険について」本校学校薬剤師 アイン薬局 武藤 巧 氏  ○保健だより掲示物での啓蒙…市内性感染症検査実施状況、世界エイズデー市内での取り組み情報等
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	○感染症が疑われる生徒からの相談には随時対応。医療機関の受診を勧める。保護者に繋がられない場合は生徒の受診状況を継続的に確認する。
		相談・カウンセリングの充実	

<委員名> 太田 貴 委員

視点		基本施策	令和5年度及び令和6年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和5年度・令和6年度(予定)> ■WEBサイト「仙台HIVネット」での情報提供(感染症対策室との協働) ■community center ZELフリーペーパー、HP、SNSでの情報提供 ■HIV/AIDS・性感染症勉強会「What's "UP"?」実施 (HIV陽性者スピーカーによる研修会/日本エイズ学会参加報告会/PrEP勉強会など) ■世界エイズデー展示(仙台市市民活動サポートセンター1階)
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<令和5年度・令和6年度(予定)> ■HIV検査担当者研修会 ■MSM向け検査広報(アプリケーション広告など。感染症対策室との協働) ■郵送検査キット無料配布(MSM限定) ■MSM向けクリニック検査の検討 ■community center ZELでの相談対応
		相談・カウンセリングの充実	
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	<令和5年度・令和6年度(予定)> ■community center ZELでの相談対応
		生活全般に亘る支援	

視点		基本施策	令和5年度及び令和6年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<p>&lt;令和5年度&gt;</p> <p>◎HIV陽性者によるピア電話相談 毎週木・日 12:00～19:00 090-7993-9447 対象者:HIV陽性者。感染不安者。家族、パートナー等全般。</p> <p>◎各種研修会、学生講義等へのHIV陽性者講師派遣 名古屋市立大学 医学部・薬学部・看護学部学生280名 2023. 4。 横浜市立大学看護部学生80名 2023. 7。横浜市立大学エクステンション講座 2024. 3(予定) その他、医療機関、行政、学校、NPO等との連携、HIV陽性者の講師派遣可(内容等要相談)</p> <p>◎その他、各種学会発表等情報発信 The XX ISA World Congress of Sociology 2023. 6 メルボルン・オーストラリア 第37回日本エイズ学会学術集会・総会2023. 12京都 口頭発表「HIV/AIDSのスティグマによるコミュニケーションの困難を乗り越えるー薬害HIV感染者である早坂典生氏の生活史からー」</p>
		学校における感染症教育	<p>&lt;令和6年度&gt;</p> <p>◎ピア電話相談の継続。 ※コロナ世代は、薬害やHIV陽性者との共通項も多く、今感染症や人権を考える上で共感や理解が得られる適切な時期と考える。次年度は、医療機関だけでなく、行政、教育現場、NGO等への啓発活動と、それぞれと連携した情報発信や啓発機会を探る。</p>
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<p>&lt;令和5年度&gt;</p> <p>◎陽性者による感染不安相談 相談員がHIV陽性者であり、生活実態、感染後の不安や対策、医療機関の現状等、熟知している相談員が対応した。相談内容は性行為後の感染不安、或いは何らかの症状、日常行動での血液や体液に触れたこと等、不安を語られた。未検査のまま感染していると寄せがちになる相談もあった。対応として、感染力が弱いに加え、あくまでも検査でしか判定がわからないことを伝え、検査行動が否定的な行動ではなく、陰性という安心を得るためであること、仮に陽性判定であっても、現在の医療では日常生活を維持して人生を全うできることを丁寧に伝えた。また、相談者が持つ一定の不安は相談員が既に経験済み、或いは乗り越えているため、不安よりも安心したと言われたこともあった。自らの経験と、専門職としてではないフラットな立場も強味となった。</p> <p>◎広島市の検査普及週間、世界エイズデー夜間検査にサポートスタッフを派遣した。また検査時期に市職員と共に広島市内ゲイバー等に向け啓発資料を配付した。</p>
		相談・カウンセリングの充実	<p>&lt;令和6年度&gt;</p> <p>◎感染不安相談の継続。</p> <p>◎アウトリーチ活動の継続。 ※過去はHIV陽性者限定から、現在は感染不安も対応している。ブロック拠点病院HPや仙台市HP等、医療、行政、教育、NGO等電話相談の周囲を図る。委員会メンバーの皆様におかれましても、周囲にお声がけいただければ幸いです。</p>
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	<p>&lt;令和5年度&gt;</p> <p>◎HIV陽性者によるピア電話相談 薬害被害者は、ブロック拠点病院を中心に適切に治療が施され、エイズ発症は語らなくなった。しかし、長期療養の中、基礎疾患の血友病、重複したC型肝炎、その他患者の高齢化等、課題が多様化し、医療、福祉他、継続支援、個別支援が必要である。また、性感染者は、感染後の混乱は語られないが、今後の治療や通院、治療費、他者への感染、周囲への告知など、生活不安が語られた。対応として、最終的に個人の判断になるが、それぞれの不安を傾聴し、最終的には服薬により発症せず、感染させず、不安なく生きられること、症状や体調の変化はその都度解決すること、そして健康でいることが相談者も周囲の人も安心して暮らせることを共有した。HIV陽性者の生きづらさは解消しづらいが、不安なく生きられるよう一緒に生きましようとして支援した。当事者として共感しあえることが、ピア相談の強味である。</p>
		生活全般に亘る支援	<p>&lt;令和6年度&gt;</p> <p>◎ピア相談の継続。 ※現在のHIV対策は、これまでにエイズに関わる様々な人たちの取り組みの結果である。しかし、正しい情報や医療があっても、HIV陽性者の生きづらさは克服できていない。今後は、委員の皆様も含めて、HIV陽性者を支援する側としてだけ見るのではなく、医療者も、行政担当者も教育現場も、そして社会全般の人たちも支える側という視点だけではなく、支えられる側になることもあるという視点を持つことが重要である。HIV対策を始めるため新しいアプローチ方法を考えたい。</p>